

ひばり 鳴く

生徒指導だよりNo.1

文責：生徒指導主事

自己指導能力を育む!!

生徒指導の究極の目標と言われているのが、『自己指導能力』の育成です。

自己指導能力とは・・・

「自己指導能力とは、その時、その場で、適切な行動を、自分で考えて、決めて、実行する能力をいう。どのような行動が適切かを判断する基準は大きく2つあり、1つは他の人の主体性を尊重すること、もう1つは自己実現を果たしていく上でプラスになることである。」
(教育下越 R1.7.19 328号より)

とあります。

中学校では生徒たちの“自己指導能力”を育成するために、①自己決定の場を与えること、②自己存在感を与えること、③共感的人間関係を育成することの3つの働きかけを大切にしています。

① 自己決定の場を与える・・・

自分で決めて実行することですが、決定の際は「自分」と「相手」の両者、又は「集団」を考えて行動することが大切です。つまり、身勝手な決定ということではないということです。

② 自己存在感を与える・・・

自分は大切にされている価値ある存在であるということを実感することを言います。子どもたちの独自性や個別性、特徴・特性を認めて、必要に応じて声を掛けてあげることが大切です。

③ 共感的人間関係の育成・・・

相互に人間として無条件に尊重し合う態度を育てることが必要です。ありのままの自分を語り、理解し合う人間関係を築いていくことが、社会性を育てます。

明日から夏休みとなります。家庭で過ごす時間が多くなりますが、各御家庭においても、上記のことを意識した関わりを進めてもらいたいと思っています。

例えば、就寝時間、起床時間、学習時間、スクリーンタイム(スマホ、ゲームなど画面を見る時間)、お手伝いなど、自己決定の場面がたくさんあります。その決定したことへの声掛け、又は決定するまでの子どもと保護者が一緒に話し合うプロセスにおける声掛けを保護者の皆様にお願ひできればと考えています。

「寝る時間を確保するにはどうしたらいい?」「スクリーンタイムはどれくらいがいいと思う?」「家族のために自分にできることある?」など、問いかけて考えさせることが大切です。大人に言われたまま行動する子どもでは自主性・主体性は育ちません。自分で決めたことに責任をもって行動できる人に成長してほしいと願っています。

また、中学生を“大人にする”という視点で子どもに“心をかけて”いくようお願いします。夏休みは、家族以外の人と接する機会も増え、人との関わり方を教えていくチャンスでもあります。目の前にいる「子」が社会に出たときに、どのように行動できるか、できていること・できていないことは何か、基本的な挨拶やマナーが身に付いているかなど、客観的に見て気付いたことを子どもに伝えていただければと思います。

1学期を振り返って

73日間の1学期が終了しました。

4月は新しい学級・環境における人間関係づくりが始まりました。先生・友達・部活の仲間、異学年との交流などなど、環境になじむまでに時間のかかった人が多くいました。4月はまだまだ緊張感があり、自分のいる周囲の様子を観察している状況でした。

5月、生徒総会がありました。全校生徒での話し合い活動を通して、今年の築地中学校が目指す方向を確認しました。

6月、第1回テストに向けて学習に集中する時間が訪れました。なかなか気持ちと頭の切り替えができない人が各学年とも多かったようです。部活動と同じように、学習面でも頑張れば、かなりの成果がでるだろうな、、、と部活動への取り組む姿から想像しています。テスト後の下越地区体育大会へ向かう姿は、3年生を中心にこれまで以上に熱心に練習に励む姿が見られました。

丁度この時期から、人との関わりが多くなってくると共に、お互いの自我が衝突し合うことが多くなってきます。気持ちのすれ違い、感情の行き違いから、“いじめ”につながる行為が見られるのもこの頃です。小学校から大きく変わらない人間関係に、“きっとあの人はこうだろう”“こう思っているだろう”などと、知っているからこそその思い込みからトラブルに発展するケースが見られました。

7月、地区大会が終了し、3年生にとっては辛い結果につながってしまった人が多くいました。いかに早く気持ちを切り替え、次の目標に向かって突き進むかが試される時期でした。1・2年生にとっては、これまで頼ってきた3年生が抜けて、新しいチームづくりをしていかなければなりません。3年生の思いを受け継ぎ、来年に向けて頑張りたいと思います。

さて、明日から夏休みとなります。本日の終業式では生徒指導として、次のような話をしました。生活リズムや健康管理を大切に、有意義な夏休みにしてほしいと思います。

- ① 命を大切にすること
- ② ネットトラブルや依存症を未然に防ぐこと
- ③ 校外での問題行動やトラブルがないようにすること
- ④ 学校での活動についての注意事項
- ⑤ 再度、命を大切にすること

毎年、夏休みに児童生徒の大切な命が失われたという報道があり、心を痛めることがあります。また、災害等で亡くなった人のニュースを見て、命の大切さを実感することも多くあります。皆さんの中にも、夏休み中に、辛い思い、苦しい思いにとらわれることもあるかもしれません。

特に、2学期の始まりが近付くと不安が高まる傾向があります。そんなときは信頼できる大人に直接でも、メールでも、相談してください。もし、話せる人が身近にいない場合は電話相談もあります。これまでの配布物や校内の掲示物にも番号が書いてあります。

全校生徒全員で、元気に2学期の始業式を迎えられることが一番の願いです。

『夏休みの生活』を再度確認し、生活・学習・部活動などの目標に向かって邁進しましょう。